ICOM

取扱説明書

特定小電力トランシーバー

IC-4077

この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。

Icom Inc.

はじめに

　このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
　本製品は、技術基準適合証明で認定された特定小電力トランシーバーです。
　ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

本製品は、防水構造ではありませんので、雨水などでぬれやすい場所では使用できません。

標準構成品

本製品には、下記のものを同梱しています。

- バッテリーパック 1
- 急速充電器 1
- ACアダプター 1
- ハンドストラップ 1
- 取扱説明書(本書)
- 保証書

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、ICOM、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。

本製品の概要について

- 単信および半複信の通信方式★に対応しています。
- 単信は最大20チャンネル、半複信は最大27チャンネルまで実装できます。
- 個別呼び出し機能に対応しています。
- 別売品の中継装置(IC-RP4008/RP4008B)を使用することで、電波が直接届かない場所でも交信できます。
- 電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した製品ですので、無線局の免許は不要です。
- 設定により、弊社製IC-4800の外部電源制御機能を利用して、別売品のCT-22に録音された内容を自動送出できます。
- 設定により、緊急信号を通話チャンネルの一致した局に送出できます。

★ 本製品の通信方式について

単信　：送信と受信で同じ周波数を使用します。
　　　　送信と受信を交互にしながら交信する方式です。
半複信：送信と受信で違う周波数を使用します。
　　　　交信のしかたは、単信方式と同じですが、中継装置を利用して交信する方式です。

使用後はリサイクルへ

この製品は充電式電池使用機器です。
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

もくじ

この取扱説明書では、一般的なご使用を想定した内容にしていますので、設定されている機能について詳しくは、販売店にお尋ねください。

もくじ

安全上のご注意　1

安全にお使いいただくために、
必ずお読みください。

▶ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
▶次の『⚠危険』『⚠警告』『⚠注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
▶お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

■無線機本体について

⚠ 危険　下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎**引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。**
引火、火災、爆発の原因になります。

⚠ 警告　下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎**電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。**
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

◎**製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。

◎**アンテナやハンドストラップの端を持って本体を振り回したり、投げたりしないでください。**
本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。

◎**大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。**
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

◎**万一煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。**
すぐに電源を切り、バッテリーパックを取りはずしてください。
煙が出なくなるのを確認し、販売店または弊社各営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。

◎**赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。**
発熱、感電、けが、故障の原因になります。

■無線機本体について(つづき)

⚠注意 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

◎**アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。**
変形や破損の原因になることがあります。

◎**指定以外の別売品を接続しないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎**無線機をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。**
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。

◎**直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。**
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

◎**テレビやラジオの近くで送信しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎**温度が、−10℃〜＋50℃を超える環境では使用しないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎**清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。**
ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■バッテリーパックについて

◆ **バッテリーパックを使用の際に、異常と思われたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社各営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。**

⚠危険 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎**バッテリーパックは、火の中に投入したり、加熱しないでください。**
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。

◎**コンクリートなどの堅い床に落としたりするなど、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。**
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎**火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での充電はしないでください。**
保護装置が動作して、充電できなくなったり、保護装置を破損して、破裂、発煙、発火や火災、やけどの原因になります。

◎**火やストーブのそば、車内や炎天下など、＋50℃を超える環境で放置、または使用しないでください。**
バッテリーパックの性能や寿命が低下したり、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

■バッテリーパックについて(⚠危険：つづき)

⚠危険 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。**

◎**下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。**
- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- ネックレスなどの金属類や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
- バッテリーパックは、単体で水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および無線機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の無線機や充電器で使用したり、それ以外の用途には使用しないでください。
- バッテリーパックから漏れ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。
  失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーパックは、分解や改造をしないでください。

⚠警告 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。**

◎**バッテリーパックの使用中や充電中、または保管中などに、いつもより発熱しているなど異常と感じられたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社各営業所カスタマーサービス担当にご連絡ください。**
そのまま使用すると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。

◎**バッテリーパックを電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置かないでください。**
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎**指定の充電時間以上、充電しないでください。**
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと、過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。

◎**指定の充電時間を超えても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。**
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎**バッテリーパックから漏れだした液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。**
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

◎**バッテリーパックは、ぬれた状態で弊社指定の無線機や充電器に装着しないでください。**
無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。

■バッテリーパックについて(⚠警告：つづき)

⚠ 警告	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
発熱、感電、けが、故障の原因になります。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれの原因になります。

- テープを巻きつけたり、加工しないでください。
  バッテリーパックから、ガスが発生することがあります。

⚠ 注意	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。

- バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
  長期間バッテリーパックを保管する場合は、バッテリーパックの残量が約半分になってから、無線機から取りはずして保管してください。
- 5℃～＋35℃以外の環境で充電しないでください。
- －10℃～＋50℃以外の環境で使用しないでください。
- 長期間使用しないときは、バッテリーパックを無線機から取りはずして、－20℃～＋20℃の風通しのよい乾いた環境に保管してください。
- 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。

◎清掃には、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。
ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。
普段は、乾いたやわらかい布でふいてください。

■充電器について

⚠ 危険	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。

- 弊社指定(☞P36)以外のACアダプター、シガレットライターケーブルを使用しないでください。
- 弊社指定以外のバッテリーパックを使用しないでください。BP-243/BP-243L/BP-244専用の充電器です。
- 分解や改造をしないでください。また、ご自分で修理しないでください。

⚠ 警告	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- 充電器に水を入れたり、ぬらさないでください。また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。
- 電源コードや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱しないでください。
- 電源コードや接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。

■充電器について(⚠警告：つづき)

- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。すぐに充電器から電源コードを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社各営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。

⚠ 注意	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。

- 5℃～＋35℃以外では充電しないでください。
- 充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源コードを抜き差しするときは、電源コードを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、充電器から電源コードを抜いてください。

■充電器について(⚠注意：つづき)

⚠ 注意	**下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。**

◎ **直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。**
充電器の火災、故障、変形、変色、またはバッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。

◎ **清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。**
ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

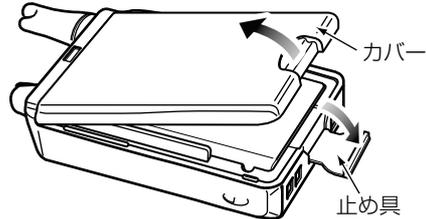
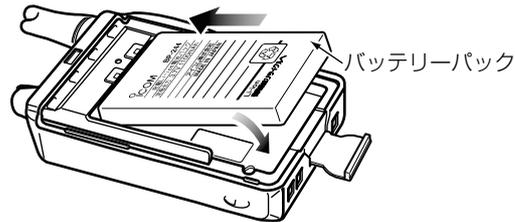
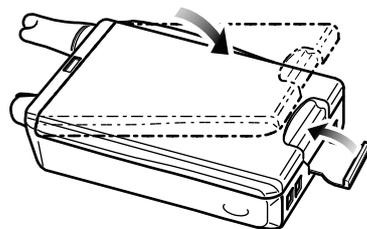
取り扱い上のご注意

- アンテナを持って、製品を持ち運ばないでください。
- 本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
  結露した場合は、水分をふき取ってからご使用ください。
- 本製品は、防水構造になっていませんので、雨水などに濡れやすい場所では、使用しないでください。
- 充電口や充電端子部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがあるので、ときどきお手入れしてください。
- 磁気カードを無線機に近づけないでください。
  磁気カードの内容が消去されることがあります。
- バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは必ず充電してください。
- 本機の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

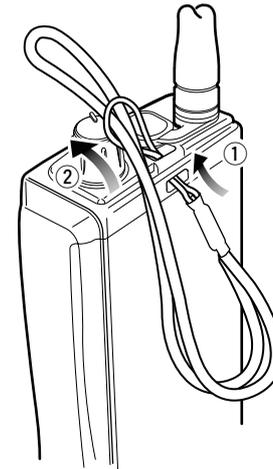
電波法上のご注意

- 特に他局の通信を妨害したり、通話の内容を他に漏らし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- 使用できるのは、日本国内に限られています。

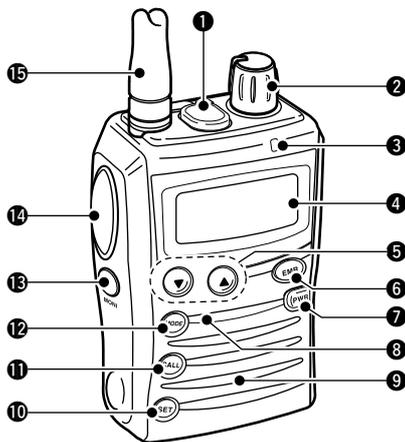
■ バッテリーパックの取り付け

① 止め具をはずし、後面部のカバーを取りはずします。

② バッテリーパックを無線機に取り付けます。

③ 電池カバーをもとの位置に戻し、止め具で固定します。

⚠注意

アンテナやハンドストラップの端を持って本体を振り回したり、投げたりしないでください。
本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
アンテナは、電波法上、取りはずせない構造になっています。

■ ハンドストラップの取り付け

① 無線機の穴にストラップの端を通します。
② 穴から通したストラップの端に、もう片方の端を通します。

3　各部の名称と機能

■ 前面部

❶ **MIC/SP端子**
別売品のSP-16P(イヤホン)などを接続します。
※保護カバーをはずすと、接続できます。
接続しないときは、保護カバーを付けておきます。

❷ **VOLツマミ**
ツマミを回すと、音量が調整できます。

❸ **状態表示ランプ**
送信/受信の状態を示します。
緊急信号の送受信をしたとき ：赤色で点滅
個別呼び出しを受けたとき　 ：緑色で点滅

❹ **表示部**
運用状態を表示します。
※電源を入れたときや各部のスイッチを操作したときは、
表示部のバックライトが約5秒間点灯します。

❺ **アップ/ダウン([▲]/[▼])スイッチ**
各セットモードでは、設定項目の設定値を選択します。
(☞P28、32、33)
【個別呼び出し機能「OFF」時】
通話チャンネルを切り替えるスイッチです。
１回押すごとにチャンネルがアップ/ダウンします。
押し続けると連続でアップ/ダウンします。
グループトーン番号を設定するモードでは、グループ番号を設定できます。(☞P22)
[▲]スイッチを押しながら[▼]スイッチを押すと、アップスキャン(☞P26)がスタートします。
[▼]スイッチを押しながら[▲]スイッチを押すと、ダウンスキャン(☞P26)がスタートします。
【個別呼び出し機能「ON」時】
相手局を切り替えるスイッチです。
１回押すごとに相手局番号/グループ番号がアップ/ダウンします。
押し続けると連続でアップ/ダウンします。

❻ **[EMR]スイッチ**
長く押すと、本製品と同じ通話チャンネルの局に、緊急信号を送出します。(☞P20、21)

❼ **[PWR]スイッチ**
長く押すごとに、電源の「ON」/「OFF」を切り替えます。

❽ マイクロホン部
超小型のマイクロホンを内蔵しています。
※イニシャルセットモードの[内蔵マイクの設定](☞P29)で、「In-on」(内蔵マイクを使用する)を設定していると、別売品のスピーカーマイクなどを接続しても機能します。

❾ スピーカー部
超小型のスピーカーを内蔵しています。
別売品のスピーカーマイクなどを接続すると、動作しません。

❿ SETスイッチ
短く押すと、セットモードになります。(☞P32)
[SET]スイッチを押しながら[PWR]スイッチを押して電源を投入すると、イニシャルセットモードになります。(☞P28)
各セットモードでは、短く押すごとに、設定項目を切り替えます。(☞P28、32、33)
長く押すと、キーロック機能(☞P27)の「ON」/「OFF」を切り替えます。

⓫ CALL
短く押すごとに、各セットモードの設定項目を逆方向に切り替えます。(☞P28、32、33)
【個別呼び出し機能「OFF」時】
グループトーン機能が「ON」のとき、短く押すと、接続確認ベルを送出します。(☞P24)
【個別呼び出し機能「ON」時】
短く押すと、全体呼び出しモードへ移行します。(☞P17)
[MODE]スイッチで、もとの表示に戻ります。
長く押すごとに、番号表示(小)の表示内容を、「自局のグループ番号」⟷「自局番号」と切り替えます。

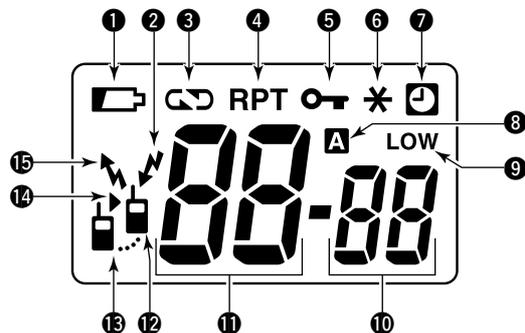
⓬ [MODE]スイッチ
【個別呼び出し機能「OFF」時】
短く押すと、通話(交信)するモードと、グループトーン番号設定モードを切り替えます。
長く押すと、秘話機能(☞P25)が「ON」/「OFF」します。
[PTT]スイッチを押しながら[MODE]スイッチを押すと、圏内確認機能(☞P23)が「ON」/「OFF」します。
【個別呼び出し機能「ON」時】
長く押すと、運用する通話チャンネル番号とトーン設定値を約2秒間表示します。

⓭ [MONI]スイッチ
押しているあいだ、モニター機能(☞P27)が「ON」します。

⓮ [PTT(送信)]スイッチ
送信と受信を切り替えるスイッチです。
送信するときは、**[PTT]**スイッチを押しながら、マイクに向かって話しかけます。
【個別呼び出し機能「OFF」時】
グループトーン機能が「ON」のとき、[PTT]スイッチを押しながら[▲]スイッチを押すと、接続確認ベルを送出します。(☞P24)
[PTT]スイッチを押しながら[▼]スイッチを押すと、呼び出しベルを送出します。(☞P25)

⓯ アンテナ
電波を発射、または受信する部分です。
電波法上、取りはずせない構造になっています。

【ご参考に】
電波法上、連続通話が3分を超えると、通話を自動的に切断します。(☞P19)

■ 表示部

❶ **電池残量表示**
電池の容量が少なくなると点灯します。
さらに少なくなると点滅します。(☞P27)

❷ **受信表示**
受信中を表示します。

❸ **秘話表示**
秘話機能が「ON」のとき点灯します。

❹ **RPT(半複信)表示**
レピータ(中継機)を使用して通話するチャンネル(RPT1CH～RPT27CH)を選択したとき点灯します。

❺ **キーロック表示**
キーロック機能が「ON」のとき点灯します。

❻ **コンパンダ表示**
コンパンダ機能が「ON」のとき点灯します。

❼ **オートパワーオフ機能表示**
オートパワーオフ機能が「ON」のとき点灯します。
(☞P26、32)

❽ **個別呼び出し機能表示**
個別呼び出し機能が「ON」のとき点灯します。

❾ **ローパワー表示**
ローパワー(1mW)を選択したとき点灯します。

❿ **番号表示(小)**
セットモードのとき、設定項目の設定値を表示します。
【個別呼び出し機能「OFF」時】
グループトーン番号を設定しているとき、自局のグループトーン番号を表示します。
【個別呼び出し機能「ON」時】
自局のグループ番号または個別番号を表示します。

⓫ **番号表示(大)**
セットモードのとき、設定項目を表示します。
【個別呼び出し機能「OFF」時】
通話チャンネル番号を表示します。
【個別呼び出し機能「ON」時】
運用する個別番号、またはグループ番号を表示します。

⓬ **自局表示**
自局の運用状態を表示します。

⓭ (圏内/圏外表示)/(着信/交信中表示)

【個別呼び出し機能「OFF」時】

(圏内/圏外表示)

圏内確認機能(☞P23)が「ON」のとき、相手局が通信圏内(点灯)か圏外(点滅)かを表示します。

【個別呼び出し機能「ON」時】

(着信/交信中表示)

個別呼び出し機能使用時、着信および交信中に表示します。

⓮ ワンタッチPTT表示

ワンタッチPTT機能(☞P26、29)が「ON」であることを表示し、送信中は点滅、受信中および待ち受け時は点灯します。

⓯ 送信表示

送信中を表示します。

4 基本操作のしかた

1 電源を入れる

[PWR]スイッチを長く押すと、電源が入ります。
※再度、[PWR]スイッチを長く押すと電源が切れます。

電源が入ると、ビープ音が「ピピ」と鳴って、表示部が点灯します。
このとき、表示部のバックライトが約5秒間点灯します。
※電池の容量が少ないときは、表示部に電池残量表示“ ”が点灯し、さらに少ないときは点滅します。
ほとんど容量がないときは、「Lo」を表示します。

◇電源を入れたときの表示について

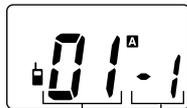
電源を入れた直後に、個別呼び出し機能の「ON」/「OFF」を確認できます。

- **個別呼び出し機能の設定：「OFF」**
  電源を切る前の通話チャンネル番号(例：1)を表示します。

- **個別呼び出し機能の設定：「ON」**
  電源を切る前の個別(相手局)番号(例：01)と、自局のグループ番号(例：-1)を表示します。
  ※“A”が点灯します。

2 音量を調整する

相手局の音声が大きすぎたり、小さすぎるときは、[VOL]ツマミを回して聞きやすい音量に調整します。

何も音が出ていない状態での調整は、[MONI]スイッチを長く押し、「ザー」という音を聞きながら調整します。

■ 個別呼び出し機能の設定

個別呼び出し機能とは、交信したい相手だけを呼び出しできる機能です。
本製品を運用する前に、イニシャルセットモードで、個別呼び出し機能(☞P30)の「ON」/「OFF」を設定してください。
設定により、交信の操作手順が異なります。

<手順>
①電源を切ります。
②[SET]スイッチを押しながら、[PWR]スイッチを押して電源を入れます。
　●イニシャルセットモードを表示します。
③[SET]スイッチを短く押して、個別呼び出し機能設定項目「oF」を選択します。
　※[SET]スイッチを押すごとに、「St-tS」→「bL-01」→「Pt-oF」→「Co-oF」→「In-oF」→「Id 01」→**「oF」**→「on -1」*1→「 1- --」*1→「 - --」*1→「Pb-b4」*1→「Cb-on」*2→「Eb-on」*2の順に切り替わります。
　*1 個別呼び出し機能の設定が、「ON」のときだけ表示されます。
　*2 設定により、表示されます。
　※個別呼び出し機能に関係のある項目を選択しているときは、“A”が表示部に点滅表示します。

④[▲]/[▼]スイッチを押して、個別呼び出し機能の「ON」/「OFF」を選択します。
　●oF ：個別呼び出し機能を使用しない　(初期設定値)
　●on ：個別呼び出し機能を使用する
　　※本製品、またはIC-4800を使用する相手と通信できます。

　※設定内容を「on」に設定して、[SET]スイッチを押すと、「on -1」(自局グループ番号)→「 1- --」(通話チャンネル番号)→「 - --」(連続トーン番号)→「Pb-b4」(ポケットビープ)の順に設定項目が切り替わります。
　これらの設定内容も同様に、[▲]/[▼]スイッチで設定します。
⑤[PWR]スイッチを押してセットモードを解除します。

◇個別呼び出し機能の設定により、交信の操作手順が異なります。
●個別呼び出し機能が「OFF」の場合　：☞P14
●個別呼び出し機能が「ON」の場合　：☞P16

4

■ 個別呼び出し機能「OFF」

(個別呼び出し機能「ON」の場合☞P16)

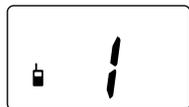
1 通話チャンネルを選択する

[▲]/[▼]スイッチを短く押して、通話チャンネルを設定します。

※相手局と同じ通話チャンネルを設定していないと、通話できません。

※[▲]/[▼]スイッチは、押し続けると連続動作になります。
連続動作は単信方式(シンプレックス)用通話チャンネル、半複信方式(セミデュプレックス)用通話チャンネルの下限(1CH/RPT1CH)になると、ビープ音が短く鳴り、停止します。
スイッチをはなすと、再操作できます。

チャンネル番号「1」

※目的の信号を静かに待ち受けする場合は、グループトーン機能(☞P22)を併せて設定できます。

◇通話チャンネル番号の選択について

通話チャンネル番号とは、交信する周波数のことです。
交信する全局は、同一チャンネルに設定してください。
本製品と、他機種とのチャンネル対応表は、右に記載しています。

<本製品の通話チャンネル>

●単信方式(シンプレックス)用通話チャンネル対応表

IC-4077	IC-4008W IC-4088/D IC-4800	IC-4006 IC-4008 IC-4008D	IC-4006B IC-4008B IC-4008BD
1	○	×	○
2	○	×	○
3	○	×	○
4	○	×	○
5	○	×	○
6	○	×	○
7	○	×	○
8	○	×	○
9	○	×	○
10	○	×	○
11	○	×	○
12	○	○	×
13	○	○	×
14	○	○	×
15	○	○	×
16	○	○	×
17	○	○	×
18	○	○	×
19	○	○	×
20	○	○	×

※ 単信方式：1CH～20CH

● 半複信方式(セミデュプレックス)用通話チャンネル対応表

IC-4077	IC-4088/D IC-4800	IC-4008BD	IC-4008D
RPT 1	○	○	×
RPT 2	○	○	×
RPT 3	○	○	×
RPT 4	○	○	×
RPT 5	○	○	×
RPT 6	○	○	×
RPT 7	○	○	×
RPT 8	○	○	×
RPT 9	○	○	×
RPT 10	○	○	×
RPT 11	○	○	×
RPT 12	○	○	×
RPT 13	○	○	×
RPT 14	○	○	×
RPT 15	○	○	×
RPT 16	○	○	×
RPT 17	○	○	×
RPT 18	○	○	×
RPT 19	○	×	○
RPT 20	○	×	○
RPT 21	○	×	○
RPT 22	○	×	○
RPT 23	○	×	○
RPT 24	○	×	○
RPT 25	○	×	○
RPT 26	○	×	○
RPT 27	○	×	○

※半複信方式：RPT1CH～RPT27CH

2 呼び出しをする

[PTT]スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって相手局を呼び出します。
送信中([PTT]スイッチを押しているあいだ)は、表示部に“ ”が点灯します。

※半複信チャンネルを選択している時は、中継装置に回線が接続されますので、そのあいだは音声を中継できません。
[PTT]スイッチを押し、ビープ音が**“ピッ”**と鳴ってからマイクロホン部に向かって話してください。

3 呼び出しを受ける

[PTT]スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば音声が聞こえ受信になります。
受信中は、表示部に“ ”が点灯します。
待ち受け状態のとき、“ ”と“ ”は消灯しています。

※“ ”は、通話相手以外の信号(同一チャンネルで他局が通話中)を受信しているときも点灯します。

4 交信する

送信と受信を交互にします。

※相手局が送信しているときは、[PTT]スイッチを押しても混信防止機能が動作し、ビープ音が**"プップップ"**と鳴り送信できません。

※送信の終わりに『どうぞ』を付け加えると、会話がスムーズになります。

◇送信出力の切り替えかた

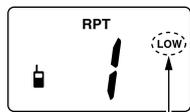
相手局との距離に応じて、送信出力(1/10mW)を切り替えてください。

※1mWで運用できるチャンネルは、レピータチャンネル(RPT1CH〜RPT18CH)だけです。

電波法上、送信出力を10mWで運用しているときは、1回の連続通話時間が3分間に制限されます。

①[▲]/[▼]スイッチを押して、レピータチャンネル(RPT1CH〜RPT18CH)をセットします。

②いったん電源を切ります。

③[MODE]スイッチと[PTT]スイッチを押しながら、[PWR]スイッチを押して電源を入れると、送信出力(1/10mW)が切り替わります。

1mW設定時点灯

■ 個別呼び出し機能「ON」

(個別呼び出し機能「OFF」の場合☞P14)

1 相手局を選択する

呼び出しには、次の3とおりがあります。

- **個別呼び出し**(☞P16)
  相手局の個別番号を「00」〜「99」から選択して、交信したい相手だけを呼び出す方法
- **グループ呼び出し**(☞P17)
  グループ番号を「–0」〜「–9」から選択して、選択したグループ番号に所属する局を一斉に呼び出す方法
- **全体呼び出し**(☞P17)
  通信圏内の全局を一斉に呼び出す方法

<ご注意>

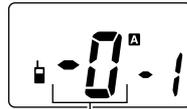
あらかじめ、イニシャルセットモードで交信する相手局と、通話チャンネルと連続トーンを同じに設定しておきます。(☞P30)

相手局と設定が異なると、通話できません。

本製品、またはIC-4800を使用する相手と通信できます。(☞P14、15)

- **個別呼び出し**
  [▲]/[▼]スイッチを短く押して、相手局の個別番号を選択します。

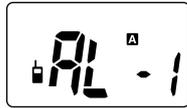
相手局の個別番号

● **グループ呼び出し**
[▲]/[▼]スイッチを短く押して、相手局が所属するグループ番号を選択します。

相手局のグループ番号

● **全体呼び出し**
[CALL]スイッチを押して、全体呼び出し表示「AL」にします。
※[MODE]スイッチで元の表示に戻ります。

2 呼び出しをする

[PTT]スイッチを押して、通話相手局を呼び出します。
送信中([PTT]スイッチを押しているあいだ)は、表示部に"ϟ"が点灯します。
※半複信チャンネルを選択している時は、中継装置に回線が接続されますので、そのあいだは音声を中継できません。
[PTT]スイッチを押し、ビープ音が**"ピッ"**と鳴ってからマイクロホン部に向かって話してください。

送信表示

■ **アンサーバック機能**(個別呼び出し機能「ON」時の機能)
お買い上げいただいたときに、アンサーバック機能が交信する互いの無線機に設定されていると、相手局が通話圏内にいるかどうかを確認できます。
受信していない状態で[PTT]スイッチを押すと、相手局が通話圏内にいるときは、ビープ音が高く"ピッ"と鳴ります。

5

3 呼び出しを受ける

待ち受けの状態　呼び出しを受ける　回線と接続

相手局から個別呼び出しを受けると、相手局の個別番号を表示部に点滅表示し、[ポケットビープ(着信時の呼び出し音)]が繰り返し鳴ります。また、状態表示ランプが緑色に点滅します。

受信中は、表示部に受信表示“ ”が点灯します。

[PTT]スイッチを押すと、回線が接続されます。

※イニシャルセットモードで[ポケットビープ](☞P31)の設定を｢OFF｣にすると、ビープ音は鳴りません。

※状態表示ランプが緑色に点灯しても、相手の音声が聞こえてこないときは、他局への呼び出しを意味します。[MONI]スイッチを押すと、他局の交信を聞けます。

緑色に点滅

押す

「ピロロッ」
「ピロロッ」

相手局から｢全体呼び出し｣または｢グループ呼び出し｣を受けると、右図の表示だけで着信をお知らせします。

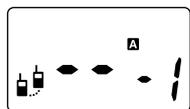
[連続トーンによる待ち受け]

イニシャルセットモードで、[連続トーン](☞P30)を設定しているときは、設定した連続トーン番号と同じ信号だけを受信します。

4 交信する

送信と受信を交互にします。

※相手局が送信しているときは、[PTT]スイッチを押しても混信防止機能が動作し、ビープ音が**“プップップ”**と鳴り送信できません。

※送信の終わりに『どうぞ』を付け加えると、交互の会話がスムーズになります。

交信時のアドバイス

◇ 通話(送信)時間の制限について

送信出力を10mWで運用時は、1回の連続通話時間は、「3分以内」と電波法で定められています。
通話制限時間10秒前になると、ビープ音が「ピッ」と鳴り、その10秒後に強制的に通話を終了します。
また、3分以内でも2秒以上通話が途切れると、自動的に通話切れになります。
※通話が切れると2秒間は休止時間になり、回線は接続されません。
2〜3秒後、[PTT]スイッチを押すと、通話を再開できます。

◇ 交信範囲について

電波の届く範囲は、周囲の状況(天候、建物や山の陰など)により異なります。
下記の通信距離をめやすに相手と交信してください。

- 見通しのよい場所　：約2km
- 郊外　：約1〜2km
- 高速道路　：約500m
- 市街地　：約100〜200m

※交信範囲であっても、建物のかげなどに入りますと、交信しにくくなることがあります。
そのときは、場所を少し移動して交信するようにしてください。

◇ マイクロホンの使いかた

マイクロホンに向かって話すときは、口元から5cmほどはなし、普通の大きさの声で話してください。
マイクロホンを近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって明瞭度が悪くなりますのでご注意ください。

◇ 相手局の声が聞こえにくいときは

相手局の声が途切れたり、弱くなったりして聞こえにくいときは、[MONI]スイッチを押してください。
モニター機能(☞P27)が動作して、音が途切れなくなります。
ただし、通信の状況により効果のない場合があります。
※モニター機能が動作しているときは、待ち受けのときでも「ザー」という音が出ます。

◇ 相手局から応答がないときは

相手の無線機が電波を受信できない場所に移動したなどの理由で応答がないときは、呼び出す前の表示に戻ってから、もう一度[PTT]スイッチを押すと、繰り返し呼び出しできます。

■ 緊急呼び出し機能

通話チャンネルの一致した局に、緊急信号を送出する機能です。
設定については、販売店にご依頼ください。

<手順：送信側>

① [EMR]スイッチを長く押します。
- ●緊急信号が送出されます。
- ※[EMR]スイッチを押すと、緊急信号送出までの時間を表示します。
- ※緊急信号送出中は、表示部に"⚡"を表示します。
- ※[EMR]スイッチを緊急信号送出前にはなすと、緊急信号を送出しません。
- ※電源が「OFF」の状態でも、[EMR]スイッチを押すと、緊急信号を送出できます。
- ※送出できないときは、"▯"が点滅します。

送出5秒前

緊急信号送出中

② 緊急信号の送出が完了すると、ベル音が鳴り、状態表示ランプが赤色に点滅します。
- ●ベル音は、イニシャルセットモードで設定した種類のベル音が鳴ります。(☞P29)
- ※ベル音を鳴らさない設定も選択できます。(☞P31)
- ※[PTT]スイッチを押すと、ベル音が止まります。

③ 相手局が応答したら、交信できます。(☞P14、16)
- ●ベル音が止まり、呼び出しをする前の表示に戻ります。

<手順：受信側>

① 緊急信号を受信すると、ベル音"ピーロピーロ･･･"が鳴り、表示部に、緊急信号を送出した局の個別番号を表示します。
- ※ベル音を鳴らさない設定も選択できます。(☞P31)

緊急信号受信中

緊急信号を送出した局の個別番号

② [PTT]スイッチを押して、応答します。
- ●ベル音が止まり、呼び出しを受ける前の表示に戻ります。

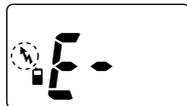
■ CT-22による音声と警告音の送出機能

CT-22(別売品)を使用したシステムでは、IC-4800(弊社製)の外部電源制御機能を利用して、CT-22に録音された音声、または警告音を自動送出できます。
設定については、販売店にご依頼ください。
※CT-22の取扱説明書と併せてご覧ください。

<手順>

① [EMR]スイッチを長く押します。
- ●緊急信号が送出され、CT-22を呼び出します。
- ※[EMR]スイッチを押すと、緊急信号送出までの時間を表示します。
- ※緊急信号送出中は、表示部に"⚡"を表示します。
- ※[EMR]スイッチを緊急信号送出前にはなすと、緊急信号を送出しません。
- ※電源が「OFF」の状態でも、[EMR]スイッチを押すと、緊急信号を送出できます。

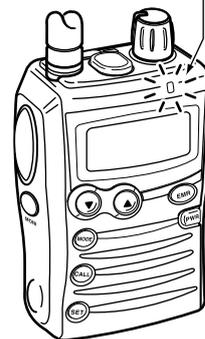
送出5秒前

緊急信号送出中

② CT-22に着信すると、状態表示ランプが赤色に点滅します。
- ●CT-22側では、録音された音声、または警告音を送出します。

③ [PTT]スイッチを押しながらマイク部に向かって話すと、CT-22に接続している車載機、またはスピーカーから、音声が送出されます。

④ CT-22への接続を解除するときは、[EMR]スイッチを長く押します。

緊急信号送信後

6

■ グループトーン機能

通話チャンネルとグループトーン番号の一致した局だけと通信するための機能で、目的の信号を受信するまで静かに待ち受けするのに便利な機能です。
※この機能は、個別呼び出し機能が「OFF」のときだけ使用できます。

<手順>

① [MODE]スイッチを短く押して、グループトーン番号設定モードにします。
※以前にグループトーン番号を設定している場合は、その番号を表示します。

② [▲]/[▼]スイッチを短く押して、グループトーン番号(01～38)を選択します。
※[▲]/[▼]スイッチは、押し続けると連続動作になります。
連続動作は、“- --”になると、ビープ音が鳴り、停止します。
スイッチをはなすと、再操作できます。

グループトーン番号設定モード
↓
グループトーン番号「02」

③ [MODE]スイッチを短く押して、グループトーン番号設定モードを終了します。
※通話チャンネルと、設定したグループトーン番号表示になります。

【ご注意】

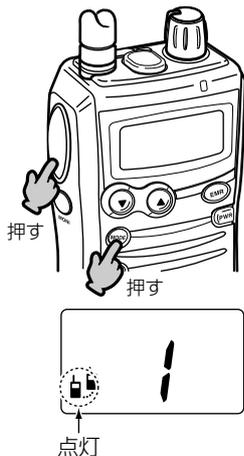
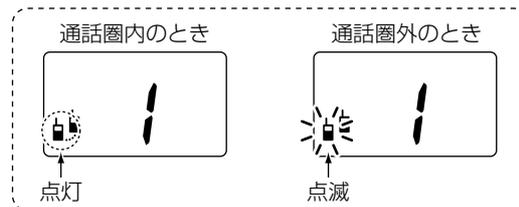
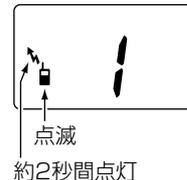
- グループトーン機能設定後は、同一チャンネルで同じグループトーン番号の局だけと交信できます。
グループ内の交信は、同一グループのすべての局で聞けます。
- グループ以外の局が同一チャンネルを使用中は、交信できません。
- 交信のしかたは、P14～16をご覧ください。
- グループトーン機能を解除するときは、手順②で、グループトーン番号表示を“- --”に設定してください。

■ 圏内確認機能

交信する相手局が圏内(電波の届く範囲)か、圏外かを自動的に判別する機能です。

※この機能は、個別呼び出し機能が「OFF」のときだけ使用できます。
個別呼び出し機能が「ON」のときは、アンサーバック機能(☞P17)で、相手局が通話圏内にいるかどうかを確認できます。

<手順>

① [PTT]スイッチを押しながら[MODE]スイッチを押して、圏内確認機能を「ON」にします。
- 圏内/圏外表示“ ”を表示部に約5秒間点灯します。

② 約5秒後に、圏内確認動作を自動的に開始します。
- 相手局が通信圏内のとき、“ ”が点灯します。
相手局が通信圏外のとき、“ ”が点滅します。

③ 圏内表示を確認し、交信します。(☞P14)
※圏外表示のときは、交信できません。
※中継装置を使用している場合は、相手局が圏内であっても、圏外表示する場合があります。

④ もう一度、[PTT]スイッチを押しながら[MODE]スイッチを押して、圏内確認機能を「OFF」にします。
- 圏内/圏外表示“ ”が消灯します。

■ 接続確認ベル機能

グループトーン機能(☞P22)を設定しているとき、相手局と接続できると、送信側と受信側で約10秒間ベルが鳴る機能です。
※この機能は、個別呼び出し機能が「OFF」のときだけ使用できます。

<手順>

① ベル音の種類をイニシャルセットモード(☞ P29)で設定します。
② [MODE]スイッチを短く押して、グループ番号設定モードにします。
※[▲]/[▼]スイッチを短く押して、グループトーン番号(01〜38)を選択します。(☞ P22)
③ [PTT]スイッチを押しながら[▲]スイッチを押して、接続確認ベルを送出します。
●操作音“ピピピピ”が鳴ります。(ベル音ではありません)
自動的に接続信号を送出し、相手局との接続確認をします。
※[CALL]スイッチを押しても、接続確認ベルを送出できます。

④ 接続ができると、送信側と受信側で約10秒間ベルが鳴ります。
●ベル音は、送信側と受信側のイニシャルセットモードで設定した種類のベル音が鳴ります。
※レピータチャンネルRPT1CH〜RPT27CHを使用している場合は、ベルは鳴りません。
※相手局が通信圏外にいたり、通話チャンネルが異なるのが原因で接続できないときは、送信側で“ブブブ”音が鳴り、ベルを送出しません。
※[PTT]スイッチを押すと、ベルが止まり、相手局と通話ができます。

■ 呼び出しベル機能

通話開始の合図や通話中に相手が出なくなったとき、もう一度呼び出しできる機能です。
呼び出しベル機能は、グループトーン機能の「ON」/「OFF」に関係なく動作します。
※この機能は、個別呼び出し機能が「OFF」のときだけ使用できます。

<手順>
① ベル音の種類をイニシャルセットモード(☞ P29)で設定します。
② [PTT]スイッチを押しながら[▼]スイッチを押して、呼び出しベルを送出します。
※受信側では、送信側と同じベル音が鳴りますので、個別に異なるベル音を設定しておけば、呼び出し相手をベル音で判別できます。
※音声を送信しているときに、[▼]スイッチを押すと、音声の代わりに、ベル音を送出します。

■ 秘話機能

秘話機能を設定していない相手に、通話内容を聞かれないようにする機能です。
※この機能は、個別呼び出し機能が「OFF」のときだけ使用できます。
なお、コンパンダ機能(☞ P29)とは併用できません。

<手順>
[MODE]スイッチを長く押すと、秘話機能が「ON」になります。
● "⊂⊃"が点灯します。
※もう一度同じ操作をすると、秘話機能を解除します。

【ご注意】
● 相手局と、通話チャンネル、および秘話機能の「ON」/「OFF」が異なると通話できません。
● 機密を要する重要な通話に使うことはおすすめできません。
無線機間の通話は電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に防ぐことはできませんのでご注意ください。
● 秘話機能はチャンネルごとに設定できません。

6

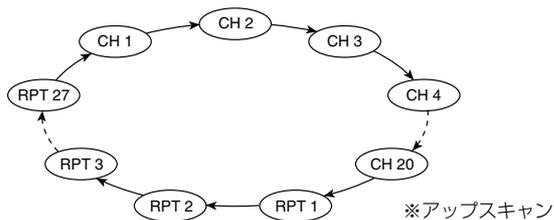
■ スキャン機能

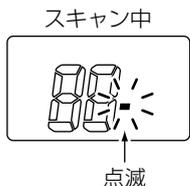
チャンネルを自動的に切り替えて、通話しているチャンネルがあれば、そのチャンネルを受信します。
なお、スキャン再開の条件は、イニシャルセットモードで設定します。(☞P29)
※この機能は、個別呼び出し機能が「OFF」のときだけ使用できます。

※アップスキャン

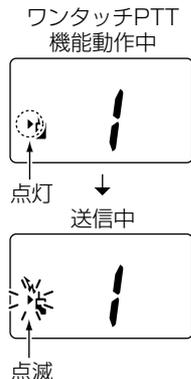
<手順>

スキャン中

点滅

- [▲]スイッチを押しながら[▼]スイッチを押すと、アップスキャンがスタートします。
- [▼]スイッチを押しながら[▲]スイッチを押すと、ダウンスキャンがスタートします。

  ※スキャン中に[▲]、または[▼]スイッチを押すと、スキャンの方向が切り替わります。
  ※スキャン中は、"-"が点滅します。
  ※もう一度同じ操作をすると、スキャンを解除します。
  また、[PTT]スイッチを短く押しても、スキャンを解除します。

■ ワンタッチPTT機能

[PTT]スイッチを短く押すごとに送信と受信を切り替える機能です。
送信のとき、[PTT]スイッチを押し続ける必要がありません。

<手順>
ワンタッチPTT機能をイニシャルセットモードで設定します。(☞P29)
※[PTT]スイッチを短く押すごとに送信と受信を切り替えます。

■ オートパワーオフ機能

なにも操作しない状態が設定時間(30分、1時間、2時間)以上続くと、ビープ音(ピピピッ)が鳴り、自動的に電源を切る機能で、電源を切り忘れても安全です。

<手順>
オートパワーオフ機能をセットモードで設定します。(☞P32)
- オートパワーオフ機能を設定すると、"◷"が点灯します

■ モニター機能

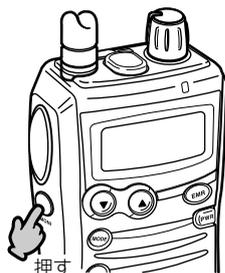
受信中に相手の音声が途切れたり、弱くなったりしたときに、聞こえ易くする機能です。

<手順>

受信中、相手の音声が聞こえにくいときは、[MONI]スイッチを押します。

[MONI]スイッチを押しているあいだはモニター機能が動作し、音声が聞こえ易くなります。

- モニター機能が動作しているときは、“ ”が点灯します。

※通信の状況により、効果のない場合もあります。

■ 電池残量警告機能

表示部の電池残量表示“ ”は、バッテリーパックの残量に応じて変化します。

表　示	バッテリーパックの状態
表示なし	十分に容量があります。
点灯	充電する時期です。(短時間の運用は可能)
点滅	すぐに使えなくなりますので、充電が必要です。
「Lo」点灯	ほとんど容量がなく、運用することができません。

※電池残量表示が点滅する前に、充電することをおすすめします。

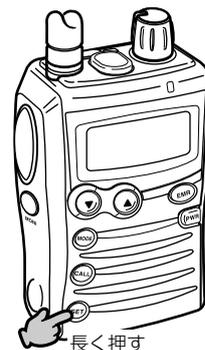
■ キーロック機能

不用意にスイッチに触れても、設定内容(表示)が変わらないように、スイッチ操作を無効にする機能です。
キーロック中は、交信以外の操作を無効にします。

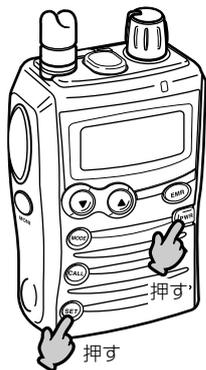
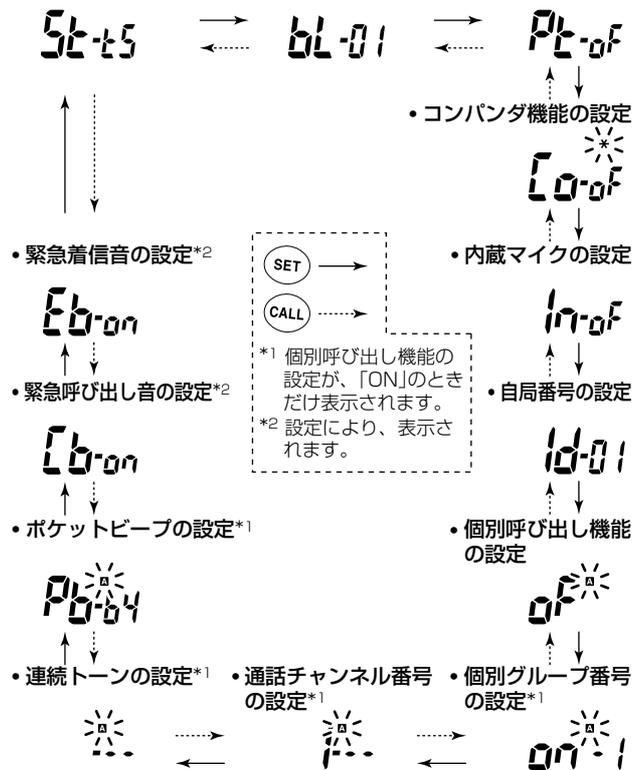
<手順>

[SET]スイッチを長く押すと“ピッピピッ”と鳴って、キーロック表示“ ”を表示部に表示します。
再度同じ動作で解除します。

キーロック中でも、下記の操作ができます。

- 電源の「ON」/「OFF」操作
- [PTT]スイッチによる送信操作および受信の切り替え
- VOLツマミによる音量調整
- [PTT]スイッチと[▼]スイッチによる呼び出しベルの送出
- キーロック機能の解除
- モニター機能の「ON」/「OFF」操作
- [EMR]スイッチによる緊急信号の送出

7 イニシャルセットモードについて

イニシャルセットモードを使用すると、初期設定されている運用状態を、お好みに応じて変更できます。

①いったん電源を切ります。
②[SET]スイッチを押しながら、[PWR]スイッチを押して電源を入れます。
※イニシャルセットモードを表示します。
③[SET]スイッチを短く押して、設定項目を選択します。
※[SET]スイッチを押すごとに、右図のように設定項目が切り替わります。
※個別呼び出し機能に関係のある項目を選択しているときは、"A"が表示部に点滅表示します。
④[▲]/[▼]スイッチを押して、設定内容を選択します。
※内容選択後は、[SET]スイッチを短く押して内容を確定すると、別の項目を選択できます。
[CALL]スイッチを短く押すと、手順③のときと逆方向に切り替えます。
※イニシャルセットモードを解除するときは、[PWR]スイッチを短く押します。

◇イニシャルセットモードの設定項目

◇スキャン再開の設定

スキャンが一時停止後、再開する条件を設定する項目です。

- St-t5 ：信号を受信したあと、5秒後にスキャンを再開する　(初期設定値)
- St-P5 ：信号を受信したあと、5秒以上信号が途切れると、スキャンを再開する

◇呼び出しベルの設定

ベルの種類を設定する項目です。

※接続確認ベル機能や、呼び出しベル機能で使用します。(☞ P24、25)

- bL-✽✽ ：01～10の中から選択する　(初期設定値：01)

◇ワンタッチPTT機能の設定

ワンタッチPTT機能を設定する項目です。(☞ P26)

- PT-oF ：ワンタッチPTT機能を使用しない　(初期設定値)
- PT-on ：ワンタッチPTT機能を使用する

◇コンパンダ機能の設定(“＊”が点滅します)

音声通話の明瞭度を上げる機能です。

- Co-oF ：コンパンダ機能を使用しない　(初期設定値)
- Co-on ：コンパンダ機能を使用する

※交信するすべての無線機で同じ設定にしてください。

◇内蔵マイクの設定

外部PTTスイッチを使用するときの、本製品の内蔵マイクを設定する項目です。

- In-oF ：内蔵マイクを使用しない　(初期設定値)
- In-on ：内蔵マイクを使用する

◇自局番号の設定

自局の個別番号を設定する項目です。

※個別呼び出し機能で使用します。

- Id-✽✽ ：00～99の中から選択する　(初期設定値：01)

◇個別呼び出し機能の設定(“A”が点滅します)
交信したい相手を個別に呼び出す機能を設定する項目です。

- oF ：個別呼び出し機能を使用しない (初期設定値)
- on ：個別呼び出し機能を使用する

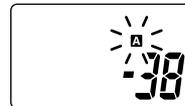
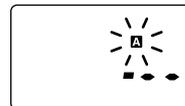
◇自局グループ番号の設定(“A”が点滅します)
※個別呼び出し機能の設定が、「ON」のときだけ表示されます。
自局のグループ番号を設定する項目です。
※グループ呼び出し機能で使用します。

- on -✻ ：–0～–9の中から選択する (初期設定値：–1)

◇通話チャンネル番号の設定(“A”が点滅します)
※個別呼び出し機能の設定が、「ON」のときだけ表示されます。
自局が使用する通話チャンネル番号を設定する項目です。
※[通話チャンネル]番号とは、交信する周波数のことです。

- ✻- -- ：1～20(単信方式)、RPT1～RPT27 (半複信方式) の中から選択する (初期設定値：1)

◇連続トーンの設定(“A”が点滅します)
※個別呼び出し機能の設定が、「ON」のときだけ表示されます。
自局が使用する連続トーン番号を設定する項目です。
目的の信号を受信するまで静かに待ち受けしたいときは、[連続トーン]も併せて設定します。
設定した連続トーン番号と同じ信号だけを受信します。

- -✻✻ ：--、01～38の中から選択する (初期設定値：--)

◇ポケットビープの設定("A"が点滅します)

※個別呼び出し機能の設定が、「ON」のときだけ表示されます。

[連続トーン]や[個別番号]の呼び出しを受けたときの着信音のパターンを選択する項目です。

- Pb-oF ：鳴らない
- Pb-b1 ：30回(30秒間)鳴る
- Pb-b2 ：3回鳴る
- Pb-b3 ：3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
- Pb-b4 ：3回連続で鳴ったあと、3秒ごとに1回鳴る (初期設定値)

◇緊急呼び出し音の設定

※設定により、表示されます。

緊急呼び出し音の「ON」/「OFF」を設定する項目です。

※「ON」に設定すると、緊急信号送出後に呼び出し音が鳴ります。

- Cb-oF ：鳴らない
- Cb-on ：鳴る (初期設定値)

◇緊急着信音の設定

※設定により、表示されます。

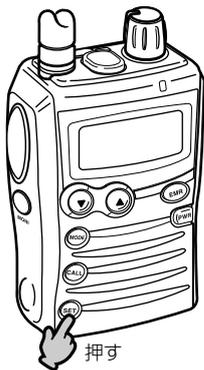
緊急着信音の「ON」/「OFF」を設定する項目です。

※「ON」に設定すると、緊急呼び出しを受けたときに着信音が鳴ります。

- Eb-oF ：鳴らない
- Eb-on ：鳴る (初期設定値)

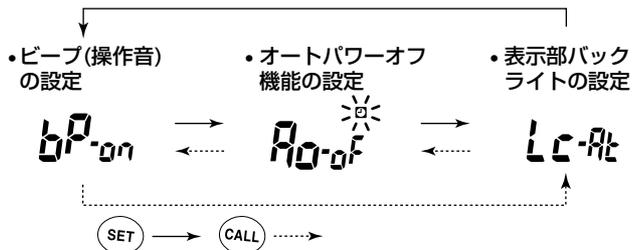
8 セットモードについて

セットモードを使用すると、本製品の設定を、お好みに応じて変更できます。

① [SET]スイッチを押します。
　※セットモードを表示します。
② [SET]スイッチを短く押して、設定項目を選択します。
　※[SET]スイッチを押すごとに、下図のように設定項目が切り替わります。
③ [▲]/[▼]スイッチを押して、設定内容を選択します。
　※内容選択後は、[SET]スイッチを短く押して内容を確定すると、別の項目を選択できます。
　[CALL]スイッチを短く押すと、手順③のときと逆方向に切り替えます。
　※セットモードを解除するときは、[MODE]スイッチを押します。

押す

◇セットモードの設定項目

•ビープ(操作音)の設定　bP-on　⇄　•オートパワーオフ機能の設定　Ao-oF　⇄　•表示部バックライトの設定　Lc-At

SET → CALL

◇ビープ(操作音)の設定

スイッチ操作が正しく行われたかどうかを知らせるビープ音を設定する項目です。
※操作したとき以外の警告音やベル音は、この設定に関係ありません。

- bP-oF　：鳴らない
- bP-on　：鳴る　　　　(初期設定値)

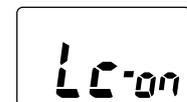
◇オートパワーオフ機能の設定(“🕘”が点滅します)

オートパワーオフ機能を設定する項目です。(☞ P26)

- Ao-oF　：オートパワーオフ機能が動作しない（初期設定値)
- Ao-30　：約30分後に電源を切る
- Ao-1H　：約1時間後に電源を切る
- Ao-2H　：約2時間後に電源を切る

◇表示部バックライトの設定

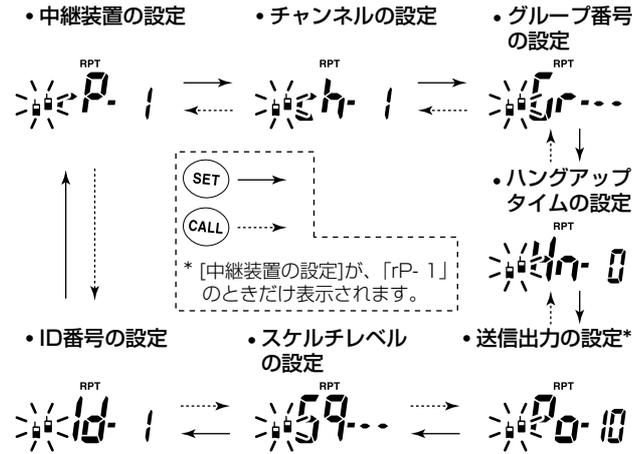
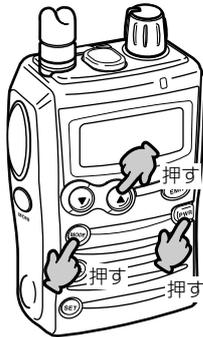
スイッチ操作時に表示部のバックライトを点灯するか、しないかを設定する項目です。

- Lc-At　：スイッチを操作したとき、自動で5秒間点灯する
　※5秒間操作しない状態が続くと、消灯します。
　(初期設定値)
- Lc-on　：常時点灯する
- Lc-oF　：点灯しない

中継装置のワイヤレス設定について

中継装置の設定を無線で設定できます。

①いったん電源を切ります。

②[MODE]スイッチと[▲]スイッチを押しながら、[PWR]スイッチを押して電源を入れます。
※ワイヤレス設定モードを表示します。
※ワイヤレス設定モードでは、"▮"が交互に点滅します。

③[SET]スイッチを短く押して、設定項目を選択します。
※[SET]スイッチを押すごとに、下図のように設定項目が切り替わります。

☞ 手順④につづく

④[▲]/[▼]スイッチを押して、設定内容を選択します。
※内容選択後は、[SET]スイッチを短く押して内容を確定すると、別の項目を選択できます。
[CALL]スイッチを短く押すと、手順③のときと逆方向に切り替えます。
※ワイヤレス設定モードを解除するときは、[PWR]スイッチを長く押して電源を切ります。

⑤中継装置のACアダプターをACコンセントから(またはプラグをDCジャックから)抜いて電源を切り、もう一度電源を入れます。
※中継装置のワイヤレス設定可能時間は、電源を入れてから約10秒間です。
※中継装置の電源を入れると、ワイヤレス設定可能を知らせるビープ音が、本製品側で"ピピピ"と鳴ります。
ワイヤレス設定可能時間を過ぎると、ビープ音が"ブブブ"と鳴り、ワイヤレス設定できません。

⑥[PTT]スイッチを押して、設定内容を送出します。
● ビープ音が"ピピピピ"と鳴ります。
※送出中は、表示部に"↯"を表示します。

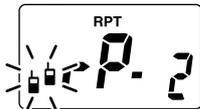
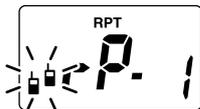
⑦設定内容の送出が完了すると、ビープ音が"ププププ"と鳴り、通常モードに戻ります。
※レピーターチャンネルを表示します。

送出中

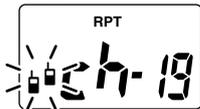
ワイヤレス設定中

◇中継装置の設定

中継装置を設定する項目です。

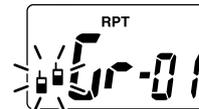
- ●rP- 1 ：IC-RP4008Bを選択する (初期設定値)
- ●rP- 2 ：IC-RP4008を選択する

◇チャンネルの設定

運用チャンネルを設定する項目です。

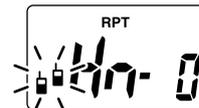
- ●ch- ✻✻ ：中継装置の設定で「rP- 1」を選択した場合は、1～18チャンネルの中から選択する
  中継装置の設定で「rP- 2」を選択した場合は、19～27チャンネルの中から選択する
  (初期設定値：1)

◇グループ番号の設定

グループ番号を設定する項目です。

- ●Gr- ✻✻ ：--、01～38の中から選択する（初期設定値：--)

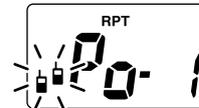
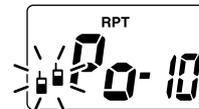
※「--」を選択すると、グループ番号は指定されません。

◇ハングアップタイムの設定

無線機の信号が途切れてから、中継動作を停止するまでの時間を設定する項目です。

- ●Hn- ✻ ：0/1/3/5(秒)の中から選択する (初期設定値：0)

◇送信出力の設定

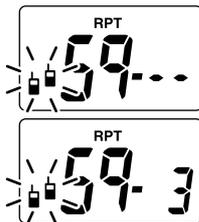
※中継装置の設定が、「rP- 1(IC-RP4008B)」のときだけ表示します。

相手局との距離に応じて、送信出力を切り替える項目です。

- ●Po- 10 ：10mWを選択する (初期設定値)
- ●Po- 1 ：1mWを選択する

◇スケルチレベルの設定

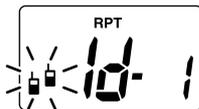
スケルチレベルを設定する項目です。

- Sq- ＊　：--、1～3の中から選択する　(初期設定値：--)

※数値が高いほど妨害を受けにくくなりますが、弱い信号は受信できません。

◇ID番号の設定

ワイヤレス設定時の誤動作防止用のID番号を設定する項目です。

- Id- 1　：1～6の中から選択する

※中継装置と同じID番号を設定します。
中継装置のID番号と異なる場合、中継装置のワイヤレス設定はできません。

10 充電について

■ 安全な充電のために

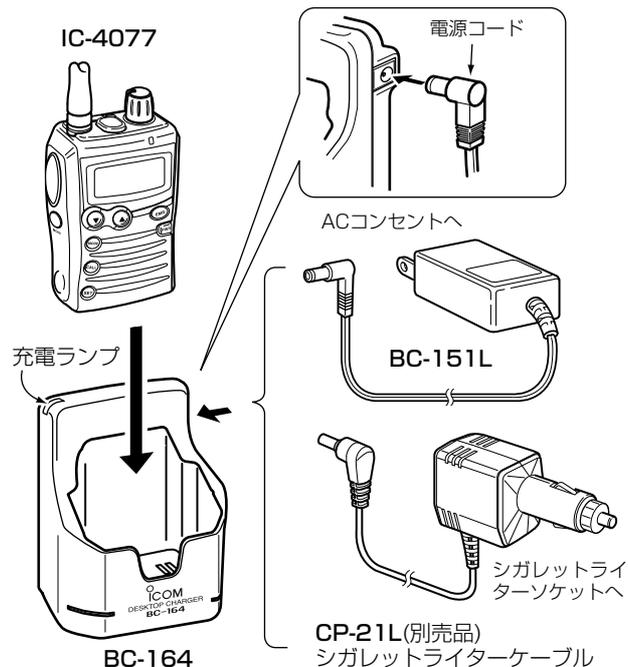
⚠危険

- 充電するときは、必ず指定の充電器をご使用ください。
- 指定(BP-243/BP-243L/BP-244)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
- 「安全上のご注意」(1章)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

⚠注意

本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れた状態で、充電しないでください。
本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子が錆びたりして、故障の原因になります。

■ 充電のしかた

バッテリーパック(BP-243/BP-243L/BP-244)を無線機に装着した状態で充電します。
充電ランプは、充電中は橙色、充電完了で緑色に点灯します。
※赤色に点滅する場合は、42ページをご参照ください。

■ バッテリーパックの定格について

名称 ＼ 定格項目	BP-243/BP-243L	BP-244
電池の種類	リチウムイオン	
電池の容量	1800mAh	1100mAh
出力電圧	3.7V	3.7V
寸法 (幅×高さ×奥行)	35.3×11.4×53.1	35.3×7.1×53.1
	<条件>突起物は含まず/<単位> mm	
運用時間 1mW時	約54時間	約31時間
運用時間 10mW時	約53時間	約30時間
運用時間	<条件> 送信1、受信1、待ち受け8の割合で、繰り返し運用	
充電時間	約3時間	約2時間
	<条件>BC-164を充電器に使用時	

※バッテリーパックに異常があると思われたときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社各営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。

■ 急速充電器の定格について

- **名　　　称**：BC-164卓上急速充電器
- **定格入力電圧**：AC100V(50/60Hz)
  ※BC-151L入力電圧
- **使用温度範囲**：5℃～+35℃
- **重　　　量**：約95g
- **寸　　　法**：67(W)×86.5(H)×50(D)mm

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

■ 正しい充電のために

バッテリーパックを無線機本体に装着したまま充電するときは、必ず無線機の電源を切って充電してください。

- バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは必ず充電してください。
- 本製品のバッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
  なお、満充電した直後に再充電しないでください。
- 極端な高温・低温のもとで充電したり、バッテリーパックと充電器の温度差が大きいときは、充電できないことがあります。
  充電するときは、5℃～+35℃の範囲を超えない場所で行ってください。
- バッテリーパックの寿命(充電回数)は、使用する頻度(ひんど)によりますが、普通の使いかたで約300～500回程度です。
  指定時間充電しても、数分後に表示部の残量表示が変化する(運用時間が極端に短い)ときは交換時期です。
- 無線機本体の電池端子、バッテリーパックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがあるので、定期的にお手入れしてください。
- 満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。
  長期間バッテリーパックを保管する場合は、バッテリーパックの残量が約半分になってから、無線機から取りはずして保管してください。

11 別売品について

■ 別売品リスト

バッテリー関係	
●BP-243	：バッテリーパック(1800mAh)
●BP-243L	：バッテリーパック(1800mAh) (専用電池カバー付き)
●BP-244	：バッテリーパック(1100mAh)

急速充電器／電源関係	
●BC-151L	：BC-164(卓上急速充電器)用ACアダプター

無線機を保護する	
●LC-161	：キャリングケース

マイクロホン／ヘッドセット関係	
●HM-153P	：イヤホンマイクロホン

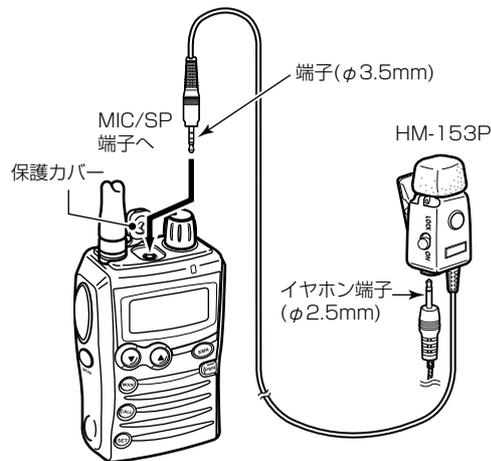
イヤホン関係	
●SP-16P	：イヤホン(φ3.5mm)

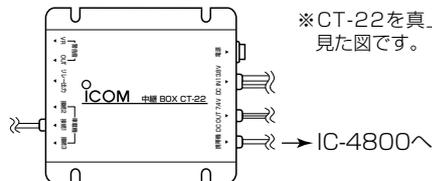
ケーブル関係	
●CP-21L	：シガレットライターケーブル

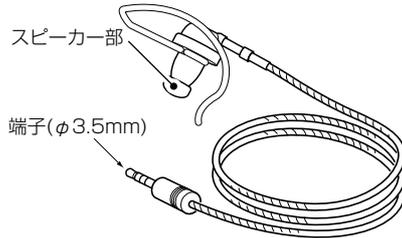
中継装置関係	
●IC-RP4008	：中継装置(RPT19CH～RPT27CH)
●IC-RP4008B	：中継装置(RPT1CH～RPT18CH)
●CT-22	：中継BOX

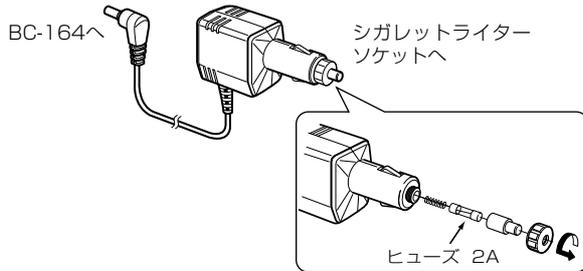
■ HM-153P(イヤホンマイクロホン)

本製品のMIC/SP端子へ直接接続して使用してください。

ご注意：保護カバーをはずしてから接続してください。
接続しないときは保護カバーを取り付けてください。

■ CT-22(中継BOX)

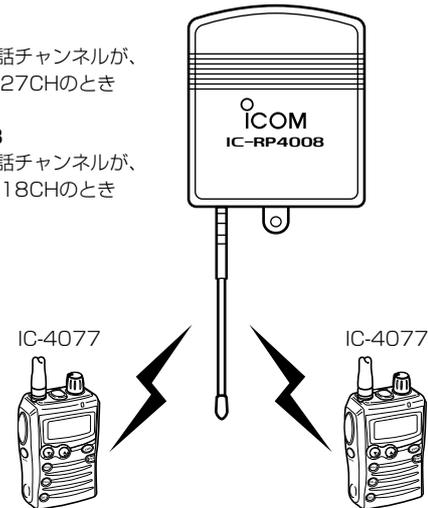
弊社製IC-4800と組み合わせて使用してください。

■ SP-16P(イヤホン)

本製品のMIC/SP端子へ直接接続して使用してください。
どちらの耳でもご使用になれます。

■ CP-21L(シガレットライターケーブル)

付属品のBC-164と組み合わせて使用してください。
下図のようにヒューズが内蔵されています。
ヒューズの容量：2A

■ IC-RP4008/IC-RP4008B(中継装置)

建物や山の陰で、電波が直接届かない場所では、中継装置(レピーター)を設置することで、本製品どうしの交信を可能にします。
交信のしかたは、5章で説明しています。

※中継装置の設定は、中継チャンネル以外の項目を出荷時の状態にしてご使用ください。
中継装置に付属する取扱説明書を参考に設定してください。

IC-RP4008　：RPT19CH～27CHの半複信用通話チャンネルに設定されている本製品で使用できます。
IC-RP4008B：RPT01CH～18CHの半複信用通話チャンネルに設定されている本製品で使用できます。

■ 初期状態に戻す(リセットする)には

「故障かな？と思ったら」(☞P41)の処置をしても異常があるときや、すべての設定を工場出荷時の状態に戻したいときなどは、下記の操作でリセットできます。

<手順>
いったん電源を切り、[MONI]スイッチ、[MODE]スイッチ、[▼](ダウン)スイッチを押しながら、[PWR]スイッチを押して電源を入れます。
※約3秒間すべての表示が点灯したのち、通話チャンネル「1」を表示します。

約3秒間、
全点灯表示する

↓

通話チャンネル
「1」を表示する

■ 日常の保守と点検について

- ふだんのお手入れは、乾いたやわらかい布で行ってください。
  汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
  シンナーやベンジンなどは、絶対に使用しないでください。
- 無線機本体の電池端子にゴミやホコリが付着すると、電源が入らないことがありますので、定期的にお手入れしてください。
  バッテリーパック(BP-243/BP-243L/BP-244)と充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)にゴミやホコリが付着すると、電源が入らないことや正常に充電できないことがありますので、定期的にお手入れしてください。
- 使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の電池残量表示の点灯(点滅)を確認してください。
  また、バッテリーパックの取り付けかたに間違いがないか、正しく装着されているかを点検してください。
- 定期的に決まった位置の相手局と通話して、交信状態に変化がないかを点検してください。
- 音量が最小にセットされていないか、音量ツマミを確認してください。

■ 故障かな？と思ったら

下記のような症状は、故障ではないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

〈症　状〉[PWR]スイッチを押しても電源が入らない

〈原因1〉 バッテリーパックの接触不良
対処： バッテリーパックの充電端子を清掃する

〈原因2〉 バッテリーパックの消耗
対処： 充電する

〈原因3〉 過放電保護回路が動作している
対処： 少し充電したあとに電源を入れる

〈症　状〉充電中に充電器のランプが赤色点滅になる

〈原　因〉 規定の使用温度範囲外で充電している
対処： 規定の使用温度範囲内で充電する
※症状が変わらない場合は、バッテリーパックの故障または寿命ですので、お買い上げの販売店または弊社営業所カスタマーサービス担当にお問い合わせください。

〈症　状〉表示部の表示が変化しない

〈原　因〉 ロック機能が動作している
対処： ロック機能を解除する(☞P27)

〈症　状〉スピーカーやイヤホンから音が聞こえない

〈原　因〉 音量が最小にセットされている
対処： 音量が最小にセットされていないかを確認する
それでも音が聞こえないときは、なるべく音量を低くして、[MONI]スイッチを押しながら、[VOL]を回して音量を確認する

〈症　状〉交信できない

〈原因1〉 相手局との距離が遠すぎる
対処： 場所を移動してから交信してみる

〈原因2〉 相手局が不在または電源を切っている
対処： 相手局の状態を確認する

〈症　状〉送信できない(ビープ音が“プップッ”と鳴る)

〈原因1〉 3分間の通話制限時間(☞P19)が経過した
対処： 2〜3秒後、もう一度送信する

〈原因2〉 同じチャンネルの電波を受信している
対処： 電波法上、受信表示“ ”が点灯中は、送信できないため、受信表示が消えたことを確認して送信するか、[通話チャンネル]番号を変更してから送信する

〈症　状〉呼び出しをしても応答がない

【個別呼び出し機能が「OFF」の場合】

〈原　因〉 相手局と通話チャンネルまたはグループトーン番号が合っていない
対処： 設定を合わせる(☞P14、22)

【個別呼び出し機能が「ON」の場合】

〈原因1〉 相手局と通話チャンネルまたは連続トーン番号が合っていない
対処： 設定を合わせる(☞P30)

〈原因2〉 呼び出す相手局の個別番号に設定されていない
対処： 相手局の個別番号に合わせる(☞P16〜17)

■ アフターサービスについて

● **保証書について**

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● **修理を依頼されるとき**

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とパソコンの設定などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

◇ 弊社製品のお問い合わせ先について

● お買い上げいただきました弊社製品の技術サポートなどご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社　サポートセンター
06-6792-4949
(平日 9:00～12:00、13:00～17:00)
電子メール：support_center@icom.co.jp
アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

● 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、下記の弊社各営業所カスタマーサービス担当にお問い合わせください。

北海道営業所	003-0806	札幌市白石区菊水6条2-2-7	TEL 011-820-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	103-0007	東京都中央区日本橋浜町3-42-3	TEL 03-5847-0722
		カスタマーサービス	TEL 03-5847-0724
名古屋営業所	468-0066	名古屋市天白区元八事3-249	TEL 052-832-2525
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211